

破たんしている原子力 それでもしがみつく理由

小出裕章が語る



5・29小出裕章講演会

■講演 「原発のない世界へ」 小出 裕章 (元京都大学原子炉実験場助教)

■日時 5月29日 (日) 13:30開場 14:00開演

■入場 無料

当日カンパをお願いさせていただきます

■場所 星陵会館 (永田町)
メトロ永田町駅下車 (6番出口)

■主催 5・29小出裕章講演会実行委員会

【事務局・ユニオンネット平和センター】
東京都千代田区神田司町2-15-9武蔵野ビル2F
電話 03(5577)7262 FAX 03(5577)7263
宮川 090(2241)1303 yunionheiwa@gmail.com



地球温暖化防止を掲げ、原子力依存の政府

国は原子力行政をこれからも強行すると言う。①未来の無限のエネルギー、②安価な発電ができる、③厳重にするので安全である等々を繰り返す。一つひとつ検証すると、①ウランは化石燃料よりはるかに少ない。②発電単価は昔から高かった。事故、処分費を含めたら話にならないほど高い。③フクシマ事故が事実をもって否定した。そこで、彼らは、「地球温暖化防止に役立つ」ということを唯一の宣伝文句にした。

しかし、それは本当か。ICPP（気候変動に関する政府間パネル）は、第5次評価報告書によると、地球の大気温度は、19世紀初頭から始まり、1865年～2012年の間に0.85°Cも上昇しているという。私も本当だろうと思う。

また、もう一つ大気中の二酸化炭素濃度は増えている。ハワイのマウナノワと南極点で、1958年～2012年まで約50年間の観測で、315ppmから390ppmまで上昇している。地球は温暖化している。大気中の二酸化炭素が増えている。これらの2つはおそらく事実である。でも、それらの間に因果関係があるのか、もし、あるとすれば結果は別に証明しなければならない。



化石燃料は二酸化炭素を排出、ウランも同じ。エネルギー浪費社会の廃止を！

原則に戻って考えてほしい。化石燃料を燃やせば二酸化炭素がでる。原子力の燃料はウランで、採掘・加工するときに二酸化炭素を放出する。運転するときも同じ。そして、福島原発事故の始末に10万年。100万年の管理を求める核のゴミの始末。仮に二酸化炭素が地球温暖化の原因だというならば、原子力はやってはいけない。現在地球の生命環境が直面している脅威には大気汚染、海洋汚染等々多数ある。それらはいずれも人間の際限のない欲望が生み出した大量生産、大量消費だ。地球温暖化も脅威の一つであり、二酸化炭素の影響があるかもしれない。多くの人が二酸化炭素だけに目を奪われている。真に求められるのは、低炭素社会を目指すことでなく、エネルギー浪費社会を廃止することである。

ウクライナ原発15基が運転可

チェルノブイリ原発（廃炉中）を除き、ウクライナには運転可能原発が15基あるが、今や政治利用の材料にされている。いかなる侵略戦争も全て残虐行為であり、市民に銃口を向ける事は犯罪。プーチンは、反対する者に核攻撃さえちらつかせる。今回の侵略戦争に対して国連も戦勝国だけの常任理事国ゆえに拒否権行使で無力化している。

=事務局=

20年8月に突然、安倍さんが辞任。そしたら菅さんが安倍政治を継承すると言う。なら、続けようとなつた。今回も菅さんの辞任、またしても、総裁選で指名された岸田さんも、『モリ・カケ問題は終わった。原発推進、辺野古も強行』の発言をした。それならスタンディングは辞められないと、いつもの場所に行くと、30人、40人の皆さんがボードを持ち、立ち続ける。こんな力強いことはない思った。
(写真はJR松本駅前で毎月参加するスタンディング)

